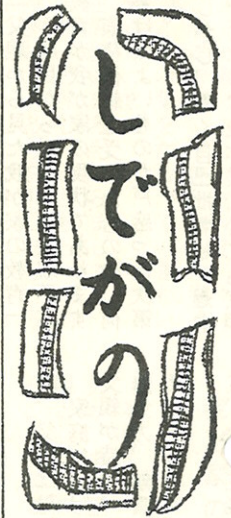


# わが家の教育方針

## ＝ 父親の提言 ＝



してがの通信  
 第 48 号  
 羽津小 P・T・A  
 編集発行  
 発行所 羽津小学校

★わが家の教育方針	1
★夏休み往復書簡	4
★余暇を楽しく	5
★沖繩の海と空	6
★回想の小学校時代	8
★話のビュッフェ	8

情報社会といわれる今日、よく父親不在、などということが言われているが流動する今日の社会の中に  
 おいて、新しく得た知識も、すぐに古くなり、役に立たなくなってしまう。昔は学校を卒業すれば、一応  
 一生涯、母親としての座に安住できた。父親の場合も同じことがいえ、父親としての權威を保って、一生  
 安住できた。

而し今日の様な情報社会の世の中では、学校を出た丈では、父、母親としての座に安住することは出来  
 ない。日に日に新しく、進歩してゆく現代子に、対応しうる、現代親にならないければ、親としての信頼や  
 權威を失ってしまう。

先日、労働省が、労働者の健康状況調査をまとめた所によると、サラリーマンの勤勉ぶりは、その七割  
 の人が仕事疲れを訴えているながら、実際に欠勤する人は、一割にも満たないと、高度成長時代が終ったあ  
 とも、日本人は相変らずエコノミックアニマル的な生活を送っていることが浮き彫りされている。

そしてその反動は家庭に及び、子どもの目につく父親の姿というものは、ごろ寝をしたり、テレビを  
 みたり、休みには、ゴルフに出掛けたり、朝寝をしている、くつろいだ姿だけであり、こうしたことから  
 父親の權威というものは、確かに失われていることが、一面では肯定できるのではないのでしょうか。

今日ほど、親の生涯教育が、切実に考えられなければならない時はないと思います。  
 そうした親のうしろ姿から、子どもが何物かを学びとって、生涯消え去ることのない、心の支えとなっ  
 てくれる様な父親、母親でありたいと思います。今回は、この危機にさらされている父親の座、母親の姿  
 勢について、スポットをあててみることにしました。

### 「父親 雑感」

鬼頭洋二

期待と不安を胸に、今春、長女  
 を初入学させました。二十数年前  
 自分も卒業した母校への入学は、  
 ひとしお感慨深いものでした。  
 入学以来四ヶ月、驚く程の子ども  
 の成長に、最早、父親の一喝も、

だましも通せず、当方の痛いところ  
 をついて反論してくる有様。幸  
 い私は勤務の都合上、子どもとの  
 接触時間が多い為、彼等には父親  
 よりも仲間の一人の内に含まられ  
 ている有様。(申し遅れましたが  
 小生三人の子持ち)我が子の成長  
 を見るにつけ、自分の幼い頃が想  
 い出されます。教育熱心な父母に  
 恵まれ、仕事一途で、子どもに一  
 度も手を挙げた事の無かった、亡  
 き父親。嘘は絶体に許さなかつた  
 厳しいがいつも花を絶やさなかつた  
 優しい母親。我が子をもって知  
 る親の喜怒哀楽です。  
 父親の「責任」「立場」と今改ま  
 って言われると、己れの成長のな  
 さに、今更ながらあわてふためく



有様。無邪気に自分の周りで遊び廻る子供達に、いつのまにか、親の責任がひしひしとせまってきたのです。具体的な答が出てこない不勉強さに、申し訳けない気が持て一杯。私が受けた父母の教えを我が子に、万分の一でも教えることが出来たらと思う。

笑い、泣き、怒り、子供の世界の一日は、可愛い、寝顔の内に、広い人間形成を歩んでいる。明日になればまた大きくなっていく子供達。いつか我が手を離れ、一人立ちする子供達に、いつまでも若く頼れる父親であってやりたい。唯々、健康に、素直に育って欲しい。そして、いつまでも、彼等の仲間の一人として彼等の成長と共に、私も勉強していかねば……。

「人は皆明日とゆう日を夢に見よ今日の値を我のみぞ知る」この言葉が子供達に分る頃、子供達は、私に、何を言うであろうか……。

「父親から見た我が家の教育」

中 錦 郁 也

「父親から見た我が家の教育」という題目から掛離れた父親不在の教育が我が家の現状であります。為、原稿依頼を受けたものの、何を書けばよいものか戸惑った次第です。

しかし、深く自己批判し、遅ればせながら、我が家に於ても父親

教育と思い、ペンを取りました。そういう訳で、現実とは違っておりますが、今後の方針という事で御了承下さい。

一、テストの点数に敏感な子どもにしたいくない。

テストとは、教師が、生徒に対する指導が適切であったかどうか評価し、今後の教育方針を教師が修正する為に行うもので、教育上必要な事ですが、その点数によりそれ以外の効果を目的とするものではないと考えるからです。

二、躰を厳しくする。

現状の学校に躰を期待するのは無理だと判断しており、又、躰は家庭で行うものだと考えています。

三、子供に過剰期待をしない。

とかく母親は、自分の果たせなかつた夢を子どもにかけけるものですが、これは、過保護、干渉過多親の虚栄心等、子どもの正常な精神発達を阻害し、自主性のない排他的自己中心的な子どもになると考えます。

四、父権は母権より大である事、家庭に於ける主権は、絶対に、父親が持つべきで、そうでないと無気力、無責任な子供に育つと考えるからです。

五、竹 主義である事。

日常生活の躰、道徳については厳しく、その他は無干渉であり、それにより自分の事は自分でやる自主性の精神を植えつける。

以上、五つを方針として対処していく考えであります。

我が家の教育方針

矢 守 貞 夫

我が家では子どもに誠実さを身に付けることを教育方針としています。誠実さと言うのは、まじめさというように狭いものや、あることを一生懸命するのだというものでなく、ある対象に体ごとぶつかり、全人格的に行動し、解決していく態度として考えるべきものと思います。

誠実さを身に付けさせる為、次の三つのことを特に考えたいと思います。

(1) 小さな小さいことでも真剣にする態度。

子供は何かせよという、「そんなつまらないことを」と言うものです。小さいことだといって誠実さが示されないようでは、どんなことでもまともに出来るはずがありません。家庭において小さいことに真剣に取り組む態度を養いたいものです。

(2) 失敗をすなおに告げさせる。事がうまく行かなかった時、その失敗を知られたくないという気持ちから嘘を言ったり、上手につくらつたりするものですが、の気持ち

が誠実さをそこなうのです。だから子どもが物事に失敗した時にそれを素直に告げたら許してやる理解が親にはほしいと思います。

(3) 友だちとの約束での誠実さ。「何時に君の家へ行く」「何日には本を返す」と友だち同志で約束しながら、一向にその約束を守らないことこそ誠実性を損なう第一歩です。親もそうした子どもの行いを「いろいろな事情から、初めの考え通りにはできないもの」といった軽い気持ちで眺めがちですが、これが悪いのです。「きちんと約束したことを果さねば気持ちが悪い」といった潔癖さを、子どもの心の内にきずいていくことは好ましい道徳性を発達させるために極めて必要なことと思います。

父親から見た我が家の教育方針

今 井 万 次 郎

常に思う事は、一人一人が健康であり、特に心の広さ豊かさをもてるよう願っています。現実にはきびしいとは、なかなか思うよういかないのが生活であり、家族構成であると思うのです。家庭とはそれがまた、社会の単位、社会の縮図ではないかと思うのです。

誰しも我が家の幸福を願っております。父親として、ただ、教育方針については、あまり理想をあれこれと描かないことにして、ありのまま、そのままの生活の中で

善悪の一端をはっきりと持ちながら、無理のない、伸々とした明るい親と子の間をたもっていきたくいと努めています。

生活自体を考えてみましても、子ども、子ども、子どもと一方的に何事も、子どもを中心とした方向にならないように気をつけております。場合によっては、その子を責める結果、苦しめる結果にならないとも限りません。おたがいが、我が家の一人であることの自覚をもち、心身ともに健康であること。おたがいが、我が家の建設者であること。おたがいが心と心の交流をたもち続けること。これが父親から望む我が家の教育モットーというところでしょうか。

ある哲学者の言葉を、かりれば「世界が距離的に狭くなったにもかかわらず、(情報と情報との交換は確かにある)、だが、人間と人間との交流、心と心との交流がいかに希薄なことでありましょう。」

我が家においても、親は親としての立場、子は子としての立場を常に確認しながら、フェアな心の対話の場をつくっていきたくいと思うのです。無理のない自然な姿のときが、それぞれ美しいときではないでしょうか。そういうときが、我が家にとっても、明るい時であります。

我が家の教育方針

藤 井 泰

本校に五年の長女と、二年の長男が、お世話になっておりますが親として次のような考えをもとに子どもを育てております。

「勉強の問題」

最近の子どもは学校教育以外に塾で勉強しておりますが、私の子どももいろいろ塾にかよっております。私は親から子どもへの押しつけで塾には出しません。ただ子ども自身が希望するならば、どんな塾にでも出します。

ただ、子どもが希望して塾に行くのなら、だからだらした考えは持たせないように心掛けており「あなたがいやならやめなさい。行く気があるのなら、一生けんめいやりなさい」という事を子どもに、いいきかせております。

家での勉強も、寒いから、暑いから、時間が遅いから等の理由でしないという事のないよう「どんな理由があっても、するべき勉強はする。親の為ではない、本人の為です」という事を、子どもが理解出来るように色々な例をあげて子どもに教えております。

又、親の見栄の為に、子供に勉強などを無理に押しつけてはならない事を、心がけております。「経済の問題」

私の父は、「貧乏はしても子供には金をかける」との考えで、私共兄弟を育ててくれました。

私も父が私共にしてくださった考えを、うけついで、子どもが希望するならば、又その希望が正しいと判断すれば、私の力のあるかぎり、どんな大金でも使わせたいと考えております。

しかし、このように使ったお金を将来、子どもが回収してほしいという希望はありません。その時点では、それが正しかったのだと考えていたいと思っております。

「子どもへの将来の希望」

前項迄に書きましたように子供を育てたいと思っております。又、子どももそのように努力してその結果が善と出ようと、悪と出ようと、私としては、決して後悔はしません。

ただ親としての最低の希望は、人さまに後指をさせられない、人さまに笑われぬ、人さまがみえたら隠れなければならぬ人間にだけは育ててほしくない、思っております。

我が家の教育方針

伊 藤 均

小学生と中学生とは、家庭における勉強のしかたは、おのずから違ってくる。と言っても基本的には似ているが、小学生の間は、学校でやった事を家で時間を決め

て、予習復習で毎日を送る。それで大体やっていけると思うが、これも、やるとやらないでは、大きな違いだ。親がある程度、みてやり乍らする必要はある。中学生ともなると、親もその科目の内容によつては、ついていけないし、親が、勉強、勉強と毎日やかましくせまるとかえって、いや気がくるのか? それからのがれようとする。やらなければ、それに対して親は又いう。これは逆効果であつて、ある程度は言う必要もあるが後は本人のやる気が大切だ。そのやる気を本人につける。これに対して親が協力してやることである。又、本人が競争心を起こさせよう。本人が親に対して、こうしてほしい、ああやってほしい、この様なものがほしいと言った場合、それは少くとも、いい意味でやる気につながる事となり、出来る限り本人の意を通してやる事。この様にして何分の一かの親の協力、そして残りは本人のやる気を持つ事にしていくが、本人が学校生活を送る内に、やる気が起きなければこのまま社会に出て、どの様に生きて行くかの大きな不安も、今の子ども等に対して親は持ち続けている。



水谷きみ子先生へ

五年二組 松永 清彦

先生は、八月十一日の夜に名古屋から汽車に乗って秋田のぼくの生まれた家につきました。ぼくの家は、駅から三分ぐらい海にも近い所です。

そこでおじいさんとおばあさんが小さなお店をひらいて住んでいます。ぼくは、二年ぶりに帰ったので二人ともよるこんでくれました。四日市とちがって空気がいいし、海もきれいです。お父さんと一しょに海で二回泳ぎました。

秋田へ行って二日目の日におじいさんと一しょに大仏を見に行きました。めずらしくその大仏は、建て物の中で立っているのが首がだるくなるほど上の方を見なければならぬほどでした。後の方には、おしゃかさまみたいなのがいっぱいまわっていました。

十七日におじいさんや、いとこ達と車三台で山形の羽黒山へ、いきました。羽黒山は、大きなスギ林にかこまれて色々な神様をまつつ

夏休み 往復書簡

てありました。ホラ目を吹く山ぶしもいました。

今は、羽黒山へ登るのに車でいきますが、むかしは二時間もかかって石だんを登ったそうです。

いよいよあす帰るといふ前の晩にかんとう祭りがありました。かんとうというのには、長

い竹にあかりのついたちようちんを四十六こつけて、かたや、手のひら、ひたいなどにのせる演ぎです。とてもおもしろかったです。十九日の朝早く病気でねているおじいさんに「又来るよ」といって帰ってきました。早く良くなってほしいと思います。

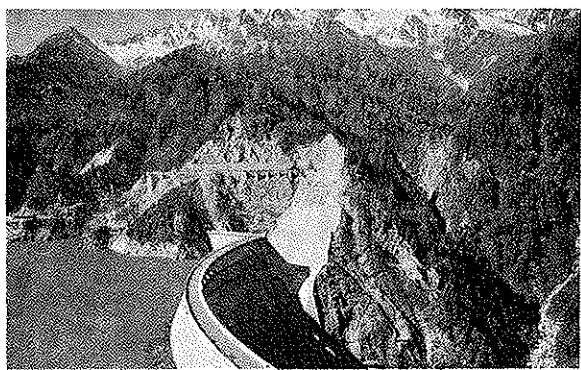
おそくなつたけど秋田で、すごした事をお知らせします。先生さようなら

松永清彦くんへ

担任 水谷きみ子

お手紙ありがとう。今までもらったたくさんのお手紙の中で、一番くわしいおたよりでした。美しい自然と、おいしい空

た。ではさようなら。



加藤裕二さま

担任 三村恵子

加藤君、絵はがき、どうもありがとう。

先生は、とても元気にしています。そして、やっぱり大町の方へ旅行して、黒部ダムを見てきました。それに立山にも登ってきました。三千五百メートルもあるのですよ、すごいでしょう。

先生は、八月十六日に、富山の方から、帰ってきました。もう少しおそければ、黒部ダムで会えたかもしれないね。

おかあさんの日記から

六の五 福田 和子

昭和五十年〇月〇日(土) おかあさんが、あなたをつれて桜の花の校庭に立った時から早や五年余。月日のたつのは早いものです。最高学年を迎えたあなたはどんな気持ちで毎日学校に通っているのでしょうか。

おかあさんの小学校低学年の頃は、今の時代と違って、着る物、食べる物のない生活をしてきました。今は、お金さえ出せば、何でも買える時代です。子どもも、この高度成長の時代に生きて、辛抱強さの欠ける子どもが多いと言われていると思います。

おかあさん達は、学校へ忘れ物等をしていけば、その時間は、教室の後に立たされて、先生のお話を聞いていたものです。そして、今度からは、絶対、忘れ物はしまいと、心にちかっただけです。もっと、先生にびしびししてもらってください。

おかあさんも、毎日、日記をつけています。時々、休むこともありますが……

あなたも、がんばってください。考え、そして行動し、失敗をくり返しながら進歩していくのです。どんな小さな事でも、最後まで、やり通すことは、とても忍耐のい

余暇

池辺に佇むと、さざ波をたてて飛雲竜の黒地に、純白と深紅のコントラスト模様の鮮やかな昭和三色が真一文字に近寄ってくるかと思えば、白地に潤黒と深紅の大模様の大正三色が体を振るようにして豪壮な遊泳ぶりを

見せながらやってくる。大きな口をパクつかせながら負けてはならじと近づいてくるのが銀鱗紅白。あつ、という間に大小様々色とりどりの愛魚たちが右

ることで、でも、やり終えた時のよろこびと、満足感、あなたも今までに何度も味わっているでしょうが、人生毎日が勉強なのです。がんばってください。

毎日、感謝の気持ちを忘れず、健康で素直な、明かるいあなたでいてください。 おかあさんは、見守っています。 「母さんのノート」より 六の四 岩田宣子 羽津小学校に入学して六年生、今年には六才の弟が一年生に入学して、朝は学校へ出る迄は大忙しで

気の中で生まれ育った東北の清彦君のお家、おじいちゃんやおばあちゃんも、大きくなった清彦君の姿を見て、どんなにかうれしかったでしょうね。

秋田や山形の風物を、お手紙で紹介してもらって、東北地方をあまり知らない先生も、一度行ってみたいになりました。小さい時とちがって、五年生になって見るいろいろな建物や自然、めずらしい行事などは、ほんとうによい社会勉強になって、よかったです。学校がはじまったら、みんなから、夏休みのいろいろな思い出話

三村けい子先生へ

四年四組 加藤裕二

先生おげんきですか。八月十六日から家ぞくで大町へ行きました。

このはがきは黒部ダムというところへ行つたときに、かつたものです。

まだ山には、雪がのこっています。黒部ダムをつくるのに、のべ二千万人の人がはたらいて、七年間かかったそうです。大町は、とてもいいところでは

錦鯉のいる生活

志 村 量 勝

往左往右を下への群泳が始まる。手を入れると入れかわり、たちかわり掌の上に乗ったり、指先を音をたててしゃぶつたりの大騒動。この一時は私にとってすべてを忘れて無心に楽しめる一時なのである。

今一つの楽しみは、素晴らしい逸品作出を夢みて、八十八夜前後に探卵して稚魚を育成することである。雄壮で人懐っこく自然が織りなす錦の色彩が競って豪遊する様は、誠に芸術的で逞ましい生命力には神秘的にさえ思われる。

す。弟を連れて出る後姿を見ていますと、随分成長したものだ感慨無量になります。そんな後姿を見てふと昨年の十一月のある出来事を思い出していました。 それは底冷えのする夕方でした。娘は理科の実験があるからと言って部屋に絶体に入らないでいて、牛乳と小皿を求めました。弟とは何かそこそそしていました。が、私はすっかり実験だと信じていました。夜、主人が会社から帰って来ますと、娘が「パパ、私の部屋に来て」と言って連れていきました。と、主人が部屋から出

水作り、選別管理、親の組み合わせなど物理的なものと人為的なものがミックスされ、経験と自然の恵み、それに運不運まで手伝って一年の成績が決まるのであるが暇があれば幻の錦魚を追って期待に胸をふくませながら冥想に耽ることである。 だが思うにまかせず、仲々お目にかかれたいのであるが、粘り強い根気と愛情が不可欠だと信じながら取り組んでいる。 考えてみれば、この上ない苦勞性であることに気付いたりもするが、鯉の長寿と縁起のよさに、少しでも肖りたいものと錦鯉のいる生活を続けているのである。 て来まして「猫を家で飼いたいと言っているよ」といいますのでそれまで理科の実験だとばかり信じていた私はだまされたという気持ちになって、感情的になり娘に強くおこってしまいました。娘の部屋に入って見ると弟の机の引出しを持って来てその中へタオルを敷いて小皿に牛乳を入れその横に生まれたての子猫がうずくまっています。猫の大ききらいな私はびっくり、動物の大好きな子ども達はきつと主人の許しがでたら飼えるだろうと思っていたのでしよう。今から思えば随分かわいそうな事



をしたと反省しておりますが……その時は絶対に家で飼ってはいけないと私が許しませんでしたので、娘は弟と猫を抱いて近所の家を数軒歩いたようですが、又しょんぼりと猫を抱いて家の近くまで帰ってきました。私は娘にその子猫を抱かせてもらって来た家へ返しに行きました。なんて冷たい親だろうと子どもはきつと思っただけです。

娘には優しい心をもった人間になつてほしいと念じています。親の身勝手さで子どもの美しい心をふみにじった様で今でも胸が痛む思いが致します。

担任 齊藤 雅子

心豊かな人間に成長して欲しいと願いながら、一方では大人が、その芽をつんでいるのではないかと不安は、私の生活の中でもそう少ないことではありません。まず、私たち大人こそ、ものに感動する感受性の豊かな人間でなければならぬ。常々、そう思っています。

今日は、よいお話を有難うございました。



私の八月十五日

麴島とし子

去る八月の或る暑い昼下り、近鉄百貨店を歩いていると、ふと声をかけた人がいます。「あの、東京のK校にいらしたSさんではありませんか。」私の旧姓なので驚いてふり向きましたが、その顔を見ると、「Mさん」と、その人の幼い頃の名が反射的に私の口をついて出たのでした。朝のテレビドラマではありませんが、三十年前戦争で別れ別れになったままのMさんが、しかも同窓会名簿では消息不明のMさんがそこに立っていたのでした。その日は家に帰っても一度同窓会名簿を繰って見たのでした。改めて驚いたことに、それは最近送られて来たものなのに、どのクラスにも、多い所では十何人かの消息不明者がいるのです。名簿の懐かしい名前を追いつながら、思いは一足飛びに三十年昔に飛びました。

あの頃、私達は東京で家も学校も空襲で焼かれ、友達ともちりちりに別れ、私は栃木県の或る農村で終戦を迎えたのでした。疎開先の学校では、軍歌を歌い乍ら、素足で毎日校庭を歩調高く行進させられ、それは一糸の乱れも許されぬ恐ろしい訓練でした。何軒も何軒も山奥に松根油用の松の根を掘り

羽田から二時間半、紺碧の海、さんご礁のあなたに、緑の島、沖縄が見えてくる。しかし、だんだんと空港が近くになるにつれて黒い不気味な飛行機があちこちに散在しているのを見ると海洋博にいきおいこんで来た私の心を曇らせてしまった。

沖縄は、三重県のように縦に長い島で、北勢、中勢、南勢と、三つにわかれて真中を国道二十三号線が、車は右、人は左と本土に復帰したとはいえず、交通ルールは以前とかわらず、はしっている。

那覇空港は南勢地区にあり、そのあたりは、ひめゆりの塔、健児の塔、各県の慰霊の碑のあるところで、沖縄は行楽気分であるところではないとしてみじみ思いました。

中勢地区に海洋博の会場があり、北勢地区は亜熱帯植物が茂っているところだ。

那覇空港から海洋博の会場までバスで約三時間、街を通ると私達が植木鉢で、冬には家の中にと育てるゴムの木や、ヤシ、クロトン等が庭に大木となって茂り、バナナが実り、県花のデイゴが真赤なかわいい花を咲かせている。パイ

沖縄の海と空

＝岩崎美代子＝

に鋤をかついで通ったりもしました。それが終戦を境に、「民主主義とは……」と学校は一変したのです。時勢とは言いながらその変り様には子供心にもついて行けないものがありました。

思えば肉親を、友を、家を、学校を失い、それは自分でも触れたくない古傷にも似た、生涯の暗い悲しい一頁となりました。三十年経っても空欄の多い名簿を見乍ら如何に戦争が子供であった我々にまで深い爪跡を残したか恐ろしく思うと共に、将来二度と、否、絶対にこの様なことが繰返されぬよう祈らずにいられます。

敗戦の想いで

黒神泰明

昭和二十年、日本がアメリカに敗けた頃、私は丁度、中学三年生でした。その頃は、アメリカの飛行機が毎日日本のどこかの都市に爆弾や、しょうい弾を落し、たくさんの方が死んだり、ケガをしていました。

その頃、中学三年生以上は、学徒動員と言って、勉強しないで工場や魚雷や、戦車や、飛行機を作る手伝いをしていました。工場の川向うは岩国海軍航空隊がありました。

広島に原爆の落ちた時は、工場に居りました。ピカッ、と光って

ナッブル畑がある。さとうきびがいたるところに雑草のように茂っている。さくらの花が咲く一月には、取り入れでねこの手もかりたい程の忙しさだそうである。

先祖を大事にするところで、まず墓地からということで、丘のあちこちに古墳のような形をした大きな墓がみられる。

沖縄には、産業や工業がない。

チャタン海岸は真白い砂丘が続きさんご礁から静かな波がよせてくる海岸ですが、かつては街の人十五万人が一時になくなった悲惨なところで、このチャタン海岸にそって二十三号線がはしり右側は米軍のカテナ基地が街の八十五%をしめる莫大な土地を整地し、緑の芝生に軍色の飛行機がエンジンをつかしてな

らべてある。住民は道路の両脇に家を建て、わずかな土地を耕している。ほとんどの人が基地で働いている。基地依存の街である。

「海——その望ましい未来」をテーマに開かれた沖縄国際海洋博覧会名誉総裁の皇太子殿下のお言葉に「生物が、そして人類の歩んできた道を振り返るとき、海の果たしてきた役割の大きさに心をと

らべてある。住民は道路の両脇に家を建て、わずかな土地を耕している。ほとんどの人が基地で働いている。基地依存の街である。

「海——その望ましい未来」をテーマに開かれた沖縄国際海洋博覧会名誉総裁の皇太子殿下のお言葉に「生物が、そして人類の歩んできた道を振り返るとき、海の果たしてきた役割の大きさに心をと

しばらくたって、ドカン、と大音響が聞え、外に出ると写真にある様な黒煙がもくもくと上っていました。どこかの工場が爆発したのだろうと思っていいたら昼頃広島駅で弾薬列車が爆発したらしいとのうわさ話が流れて来ました。

夕方、工場から帰る頃、岩国駅附近の事務所や空地に敷いたむしろの上で、体が焼けただれて、半死半生の怪我人が何百人もうんうんと、うなりながら横たわっていました。工場帰りの人々は、自分の知り合いの人がその中にいないかと皆手分けして探していました。身元の分った人は通りがかりのトラックや、車を止めて連れて帰りました。知り合いの無い人は、長い間そのままでした。その頃は死体を見ても誰も驚きませんでした。

広島で多くの人が死んだ事は、すぐわかりましたが、それが原爆だったと知ったのは敗戦後でした。敗戦の前日に岩国は、日本最後の空襲を受け、近所の工場も駅も飛行場も完全にやられました。

その時は恐ろしいとは思いませんでした。啞然として、防空ごうから首を出して次々と爆破される様子を眺めていました。

その時は恐ろしいとは思いませんでした。啞然として、防空ごうから首を出して次々と爆破される様子を眺めていました。



常任委員会

だより

らえられます。人類はその長い歩みのなかで、海に乗り出し、その恵みを受け、更にこれを利用してつ、今日の世界を築き上げてきました。日本の過去を顧みずと、特にこの感を深くします。しかしこれまでのような形での海の取り組みかたに限界が見えてきたことは誰の目にも明らかかと思えます。人類の共通の宝としての海を、世界の人々が真剣に考えなければならぬときであります。

「とあいさつされていきます。地球表面積の三分の一は、水である。たとえ大陸を、その山といっしょに海の中へ、かき落したとしてもなお、水の深さは二千五百メートルもあるだろうといわれている海……。世界の人口が膨張した時、食糧、生活の場を、海に求めなければならぬ。

高さ三十二メートル、百メートル四方の巨大な建物……。海洋博のシンボルである、アクアポリスは、一時に二千四百人が生活できる、未来の海上都市です。

入口からエスカレーターで上っていくと、自分の話し声をあたかも深海で聞くように、聞こえる装置がある。

エスカレーターを降りると、四方の壁に海中写真をバックに、魚のオブジェが迎えてくれ、自分が魚になった感じがする。

「次号につづく」

去る九月八日(月) 定例常任委員会を開催致しましたので簡単に報告します。

- 一、各部の活動報告と計画について。
- 二、運動会について。
- 本年は校舎建築と重なり、運動場が制限されるために、特に日曜日にせず、二十三日(火)給食実施により行なうことを学校より報告を受け了解する。
- 三、百年史、記念品配布について
- 百年事業の時の記念品、百年史の配布が残されていたので、母親部が中心となり町別に配布名簿を整理し、町代表、町委員の皆さんの御協力のもとに今月中に処理する。
- 四、その他。
- A、学校の遊具の一つであるブランコを稲垣工業所でお世話になり修理してもらった。
- B、十月に福祉保健部を中心にして給食試食会を催す。(一年の父兄を主体に希望をとり実施する)



### 小学校時代の思い出

浜野佐都子

何しろずい分昔のことで、年月を教えればまるで夢のようだが、今も教室の様子や友だちの服装が

はつきり思い出されるから不思議だ。

＝ 浜野佐都子 ＝

ので綿入れのはおりを着て、雪の日は緑色のマントに長靴をはいて学校へ行った一年生のころ、紺色に白い線の入ったセーラー服を、買ってもらった二年生。紙障子の窓の学校がガラス窓二階建ての校舎になった三年生。

四年生の時、太ったやさしい女の先生に、漢字テストの採点を手伝ったことから、自主的に勉強する気持ち

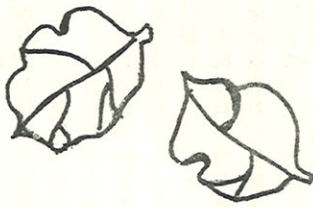
ちが起ったようだ。五年生ではカマキリのようにやせた男の先生にまぢがっていると叱られてもなっとくがいかず、応用問題でとことん食いさがつてねばったことがある。六年生のときは、木の好き

な若い男の先生で、今から考えても新しいと思う教育の方法で教えられた。

国語の時間「外へ出る。」「走れ。」近くの野原に行って「寝ころべ。」「空を見よ、何が見えるか。目をつぶれ、何が聞こえるか。」こうして私たちは詩を、短歌を、教えられた。

私は、小学校時代つめこみ教育は全くされた覚えがない。春は若草を摘んで食膳をにぎわし、夏は川で自由自在に泳ぎ、お盆までに二回もせなかの皮がむけるほど陽にやけて、それでもまだ泳いだ。

秋は栗拾い、きのことりに行き明るくなった梢を見上げて、空の色を心に刻みつけ、冬は雪にこごえ、雪に遊び、凍てた田の面を最短距離で登校した。三十数年前の思い出。



### 話の

ビュッフエ

ナナホシ



### 立哨に思う

立哨に行ってもいつも思うのは本当に立哨が子どものためになっていくかという疑問です。この交通戦争の中、子ども達は一步外に出れば、すぐにも危険にさらされており、自分の身は自分自身で守るよう注意深く行動しなければなりません。そのためにも、一人一人が自分の目ですっかりと安全をたしかめ、すばやく行動する習慣をつける必要があるのではないのでしょうか。集団登校もよい面は沢山あるでしょうが、その点から言えば、各一人ずつ登校した方がより子どものためになるように思われます。集団登校では引率する上級生以外はまるで無責任で他人まかせです。子どもの登校下校の安全を本当に考えるのなら、朝の立哨だけにたよるより、交通のはげしい横断道路に信号機をつけるなり、児童横断の標識を一日も早くはつきりとつけるよう努力していただきたいと思います。

P

### ですくさいど

★四十日という数字が、たまらなくすばらしく、珠玉の様に思えた永い夏休みも終り、二期期が始まりました。観測史上最高といわれる、きびしい残暑の中で編集会議を開くこと二回、篠田さん差し入れの竹輪や、ホームメイドのケーキで暑さをまぎらわし、汗ふきふきの編集でした。★今学期は、わが家の教育方針をテーマに、先ず父親の教育提言の特集をいたしました。

★お忙しい中を、沢山のお父さんの原稿をいただき、有難うございました。暫く連載させていただく予定です。

★戦争を知らない子ども達に、親のなめた、苦しい戦争体験を、終戦記念日によせて、お二人の方から、およせいただきました。★師弟の交流をはかる往復書簡や連絡ノート、そして先生方の小学校時代を語っていただく回想の小学校時代を連載とします。

★話のビュッフエは、みなさまの御意見、感想、随想、何でもおしゃべりしていただきたいと思

います。惹名でも結構です。箱を給食室前廊下に吊しますので、御自由にご投稿ください。

★次号は、父親と共に、母親の教育提言を特集の予定です。